

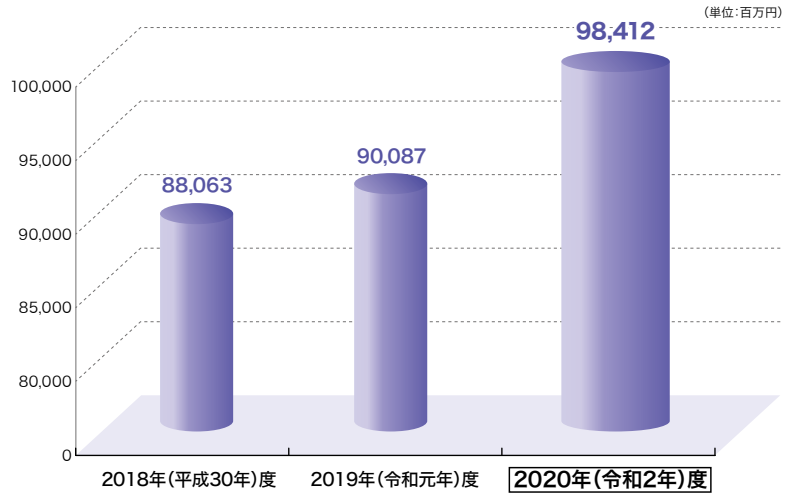
業績の概要

預金積金の状況

【預金積金残高】
98,412百万円

地域の皆様から大切な資金をお預けいただき、期末残高は対前年度比8,325百万円増加の98,412百万円となりました。

地域のお客様の着実な資産づくりのお手伝いをさせていただくため、新商品の開発やサービスの一層の充実に向け努力してまいります。

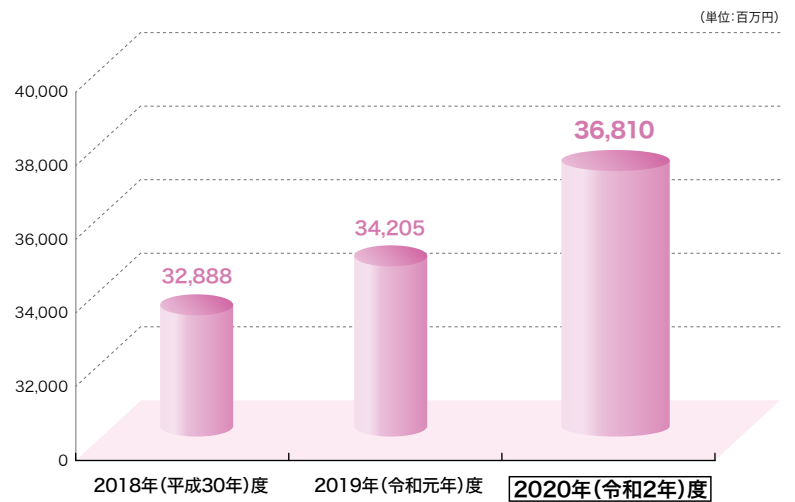


貸出金の状況

【貸出金残高】
36,810百万円

地域の皆様に幅広く利用いただいております。期末残高は対前年度比2,605百万円増加の36,810百万円となりました。

お客様の様々な資金ニーズにお応えし、地域経済の維持と発展のため、円滑な資金供給を行う形でお客様や地域社会へご融資としてご利用いただいております。



有価証券の状況

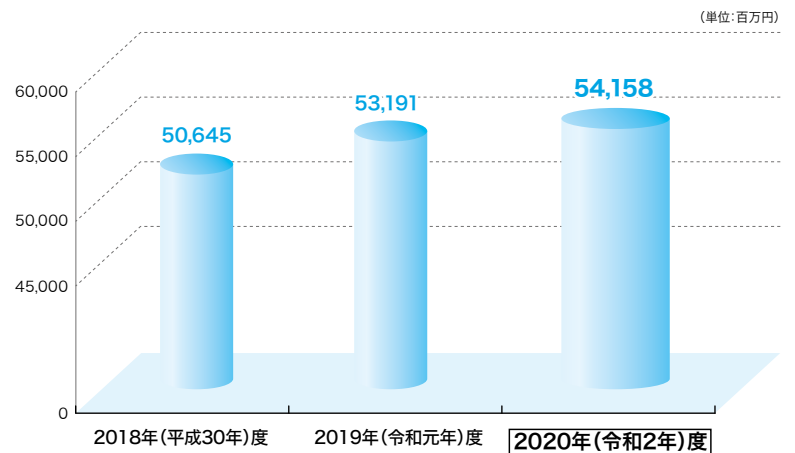
【有価証券残高】
54,158百万円

お客様からお預かりした資金の一部は、有価証券で安全性を重視し堅実に運用しております。

その他有価証券で時価のあるもの

(単位:百万円)

区分	令和2年度		
	貸借対照表計上額	取得原価	差額
その他有価証券	50,149	49,705	443
株式	303	117	185
債券	37,420	36,873	547
その他	12,425	12,714	△289



満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位:百万円)

区分	令和2年度		
	貸借対照表計上額	時価	差額
満期保有目的の債券	3,996	3,905	△91

収益の状況

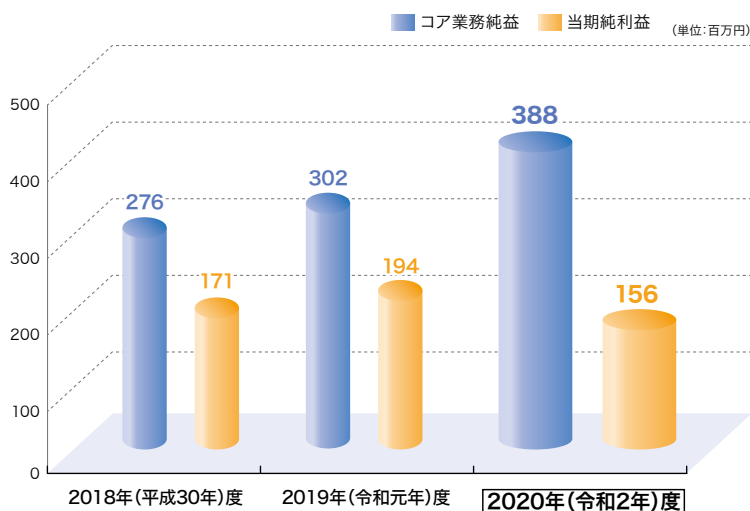
【コア業務純益】388百万円

【当期純利益】156百万円

金融機関本来の事業活動による利益を表すコア業務純益388百万円(対前年度比85百万円増加)、当期純益156百万円(対前年度比37百万円減少)と対前年度比増収減益となりました。

コア業務純益とは

貸出金や有価証券等の受入利息や手数料などの収入から、預金等の支払利息や支払手数料、経費などを差し引いた「業務純益」から、一般貸倒引当金及び国債等債券の損益を控除したもので、金融機関本来の事業活動による利益を表しております。



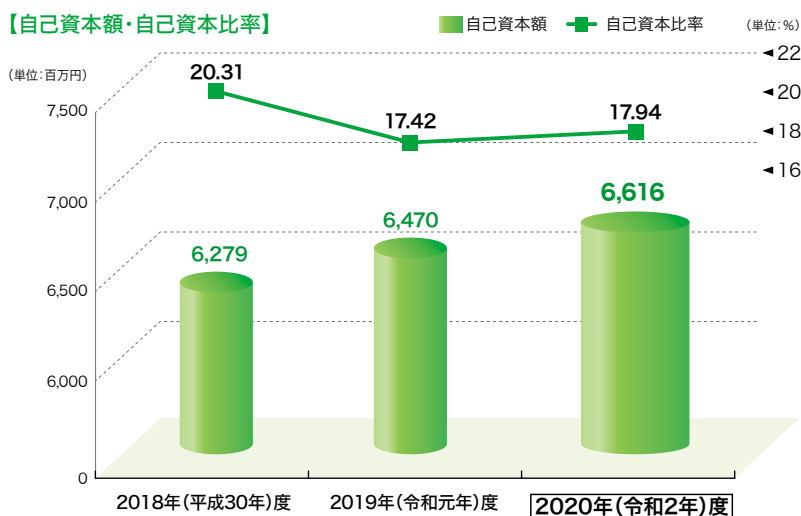
自己資本の状況

【自己資本比率】17.94%

自己資本額は、対前年度比146百万円増加の6,616百万円となりました。永年の利益からの蓄積である内部留保(無コスト資金)を中心に自己資本の増強をはかっており、自己資本の内容は充実しております。

金融機関の健全性を示す代表的な指標である自己資本比率は、対前年度比0.52ポイント上がり17.94%となり、自己資本比率規制における国内基準の4%を大幅に上回る高い水準を維持しております。

【自己資本額・自己資本比率】



不良債権の状況

【不良債権比率】2.15%

金融再生法に基づく不良債権額は、対前年度比42百万円減少し、804百万円となりました。

この結果、総与信に占める開示債権の不良債権比率は、対前年度比0.28ポイント改善し、2.15%となりました。

法令等に基づき厳格な償却・引当を行っており、経営の安全性に懸念ありません。今後におきましても、資産の健全性をより強固なものとするため、一層、リスク管理の徹底・強化に努めてまいります。

【不良債権額・不良債権比率】

